

「教科内容構成学に基づく教員養成カリキュラム構築を
促進する環境整備のための調査研究
— 「教科教育と教科内容の架橋」を実現する連携構築を目指して—

調査の概要

◆課題認識

- ・教職課程において教科教育と教科専門の実質的な連携が不十分である。
- ・教育実習系カリキュラムにおいて、理論と実践の往還の実質化が必要である。

◆調査研究の目的

- ・教職課程の質保障・向上のため教科内容構成研究の発展を図ること
- ・教科内容構成の成果を反映した教員養成カリキュラムを設計すること

◆調査研究の方法

- ・教科内容構成の成果に基づく教員養成カリキュラムの開発→教職課程の単位の実質化

◆調査研究校

- ・全国の国立大学の教員養成学部等 52

◆現状

- ・岡山大学教育学部は学校教育教員養成課程（250名）と養護教諭養成課程（30名）で構成
- ・平成23年から、文部科学省特別経費「教員の質向上に寄与する『大学と学校・教育委員会の協働』の実現」に取り組む。
- ・教育実践力を学習指導力、生徒指導力、コーディネート力、マネジメント力の4つの力に整理し、その考えに基づいて教員養成コアカリキュラムを開発し実践してきた。

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

①ポイントA

- ・これまでの教科内容構成の成果を整理し、カリキュラムに実質的に反映

②ポイントB

- ・新しい教員免許法への対応の仕方について調査を行い、その成果を教科内容構成研究に反映

③ポイントC

- ・教科内容構成研究の新たな視点と方法を提案

◆成果

- ・岡山大学大学院教育学研究科研究集録に特集号を組み、教科内容構成の成果を6本の論文として公表。
- ・教科内容構成の成果を踏まえた、教員養成カリキュラムの構築（小学校及び中学校の各教科において「教科内容構成」に関わる科目を新設（小学校各教科1、中学校各教科4）。
- ・教科内容構成に関する公開の研修会を実施（3月1日、2日）。

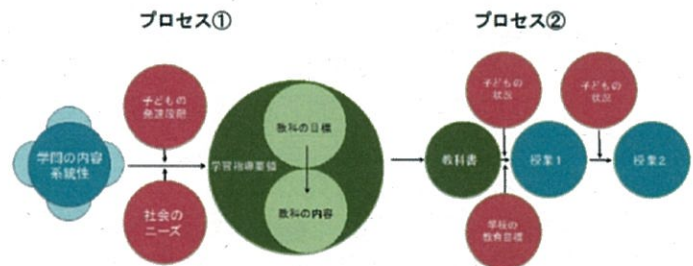


図1 「教科内容構成」のプロセス

今後の課題

◆教科内容構成の成果をふまえた養成と一体化した教員研修の支援

- ・教科内容構成研究プロジェクトチームを中心に、研究を継続
- ・大学主催の教員研修を開催し、教科内容構成の成果の普及・拡大を図る